大正大震火災の思ひ出

緩む心の
ネヂをまけ

東京市役所

特268-58
1200501125774
特268
58
S

序

明治維新以來築かれて來た帝都七十年の文化は、大正十二年九月一日、突如地軸を搖がして關東一圓を襲つた大激震と炎々天を焦した三日三夜の劫火によつて殆ど全滅に等しい災害を蒙り、本市の中樞市街地は一朝にして秋風落漠たる燒土と化してしまつた。數十億の富と數萬の生靈を喪失し、加ふるに金融、交通、通信等の都市機關は悉く停止し、全市を覆ふ不安と混亂は一時帝都の前途をして全く暗澹たらしめたのであつた。

凡そ大都市の災禍ほど悲慘なものはない。かの一六六六年の英京倫敦の大火及び一八七一年北米シカゴ市に於ける大火災、或は一九〇六年桑港を壞滅した激震の如きは、何れも近世史上の大悲慘事として特筆されてゐるが、是をわが帝都の被害に比すれば、殆ど九牛の一毛にも足りぬと謂はれる。大正大震災は獨り帝都市民の脅威、帝國空前の受難のみに止まらず、實に古今東西を通じての大悲慘事であつた。

しかし、轉禍爲福の世の喩にもみられる通り、都市の災害は度重なるに從つて逐次その舊態を改めて倍舊の盛況を齎すものである。「火事は江戸の華」と謳はれてゐるが、卓越せるわが國民精神は、古來幾多の大震火災を克服して、江戸は

大正大震火災の思ひ出

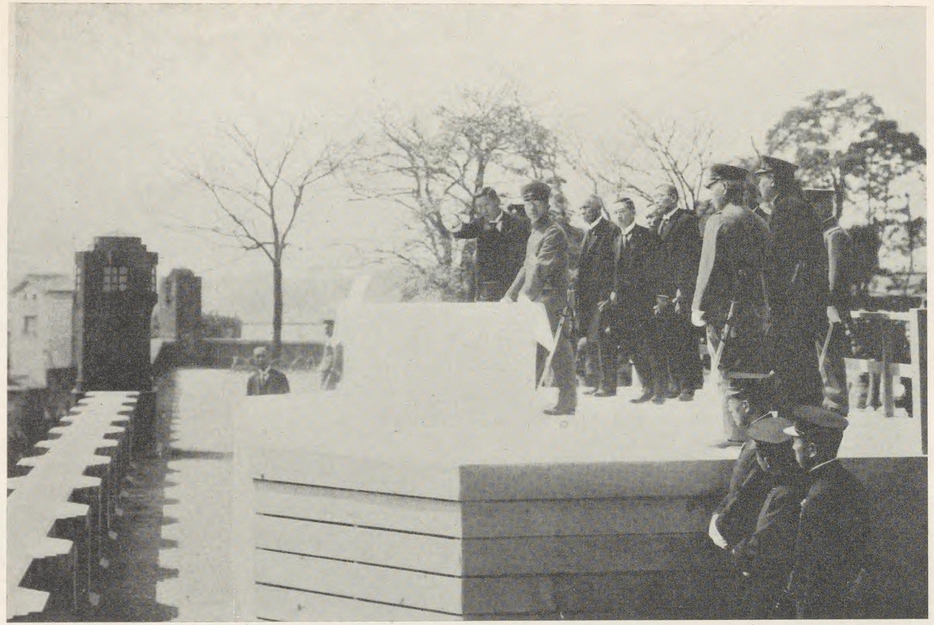
特268
58

今日の帝都と成つた如く、我々はこの大正大震災に際しても全身の汗血を濺らして非常時征服に一路邁進したのであつた。即ち、災害の朝に轡勃として起つた帝都復興の叫びの下に、朝野一致の日夜撓みなき努力は、星霜僅か七年にして、世界人を驚嘆せしめた帝都復興の大業を完成し、遂に偉と美を備へた新鮮潑剌たる今日の東京を迎へる事が出來たのであつた。

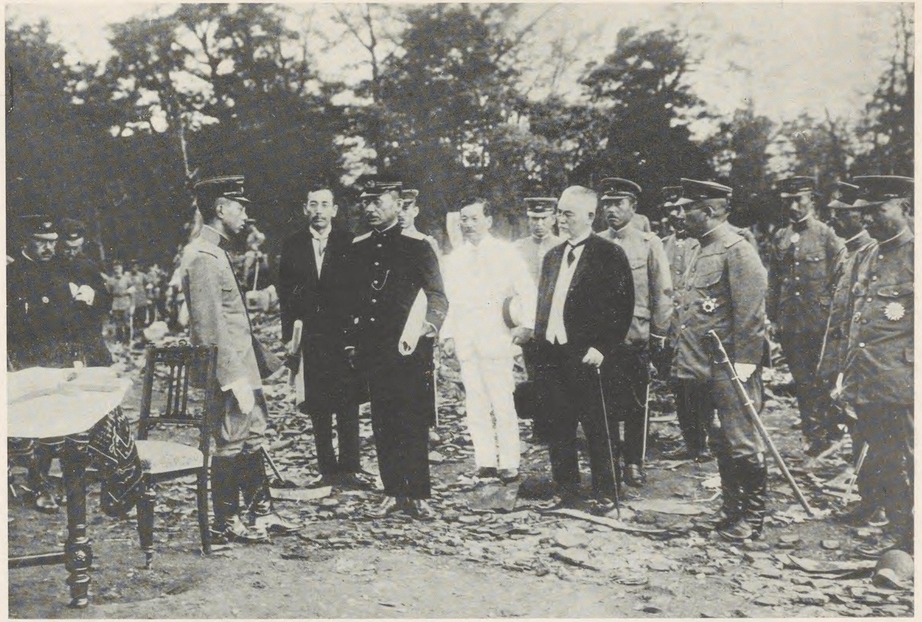
今や支那事變第三年に當り、國民の血は沸り上下一致自肅自戒の國家非常時に意義深き大正大震災十七回忌の記念日を迎へる事になつた。吾人は、かの凄慘なる一日を回想し、痛ましく慘禍に斃れた不幸な市民犧牲者の靈を謹んで弔すると共に、廢殘の帝都より復興の美果を結んだ刻苦精勵七年の苦闘を省み以て今日の戰時下國民の覺悟に及べば、轉た感激に堪へぬものがある。玆に本市は、十七年前の災禍の跡を追憶し、且は不時の天災に對する不斷の警告を喚起すべく、災害より復興への、當時の實狀を物語る貴重な寫眞、繪畫を蒐めてこの小冊子を印行し廣く非常時下の江湖に贈る次第である。

昭和十四年九月一日

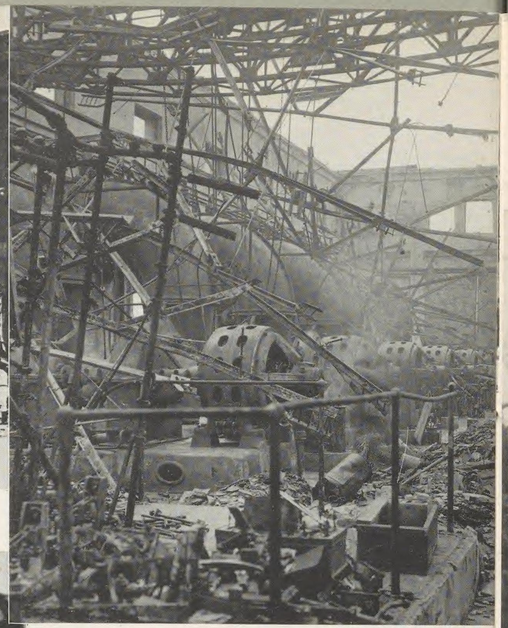
東京府
東京市



天皇陛下　昭和五年三月廿四日上野公園よりる復興なれる帝都を御展望遊ばさ

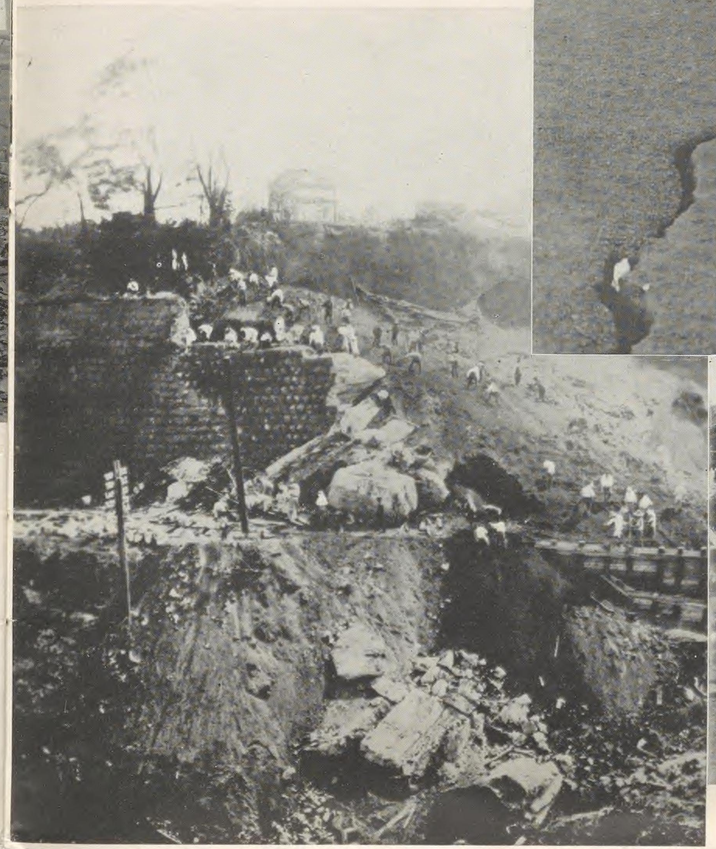


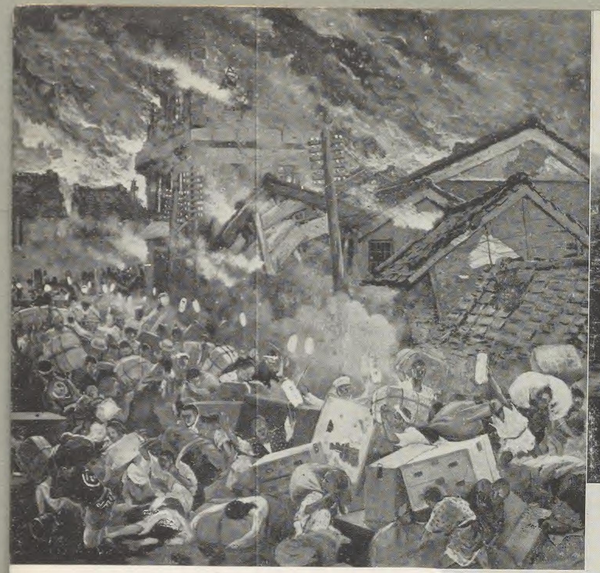
攝政宮殿下　九月十五日焦土の帝都を御巡察れさ召聞を狀實の害被くし親て於に園公野上給ふ



右上　淺草下水ポンプ所の慘狀
左上　日本建築の倒壞
左下　慘たる上野松坂屋の現場

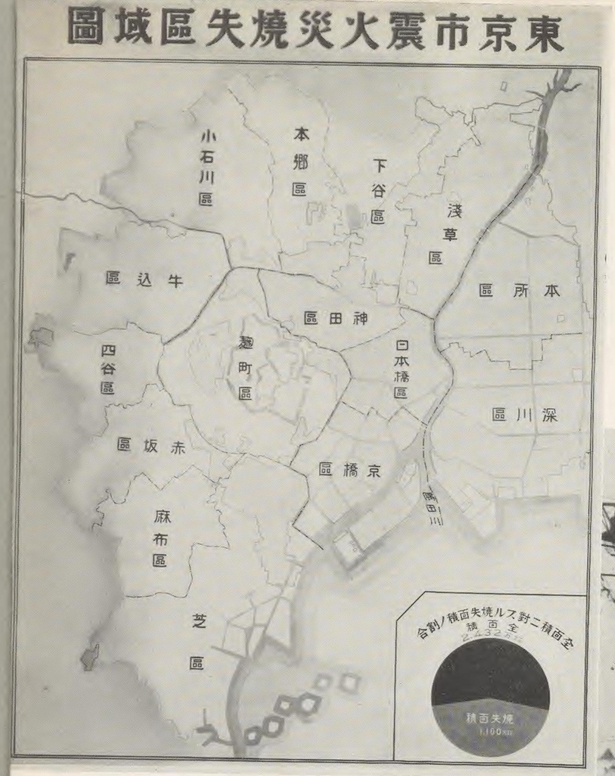
右上　馬場先門外の猛烈なる大龜裂
右下　水道鐵管の被害
左下　お茶の水の大崩壞

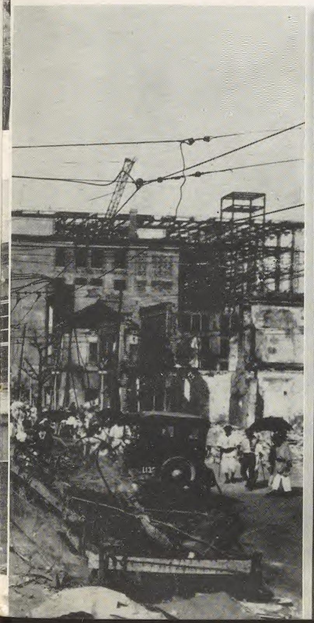




原が野焼るた凉荒　上右
（む望を面方草浅りよ驛野上）
亂混の者難避　上左
（繪油納奉堂念記災震）
壞崩の階二十るけ於に震一第　下右
（繪油納奉堂念記災震）

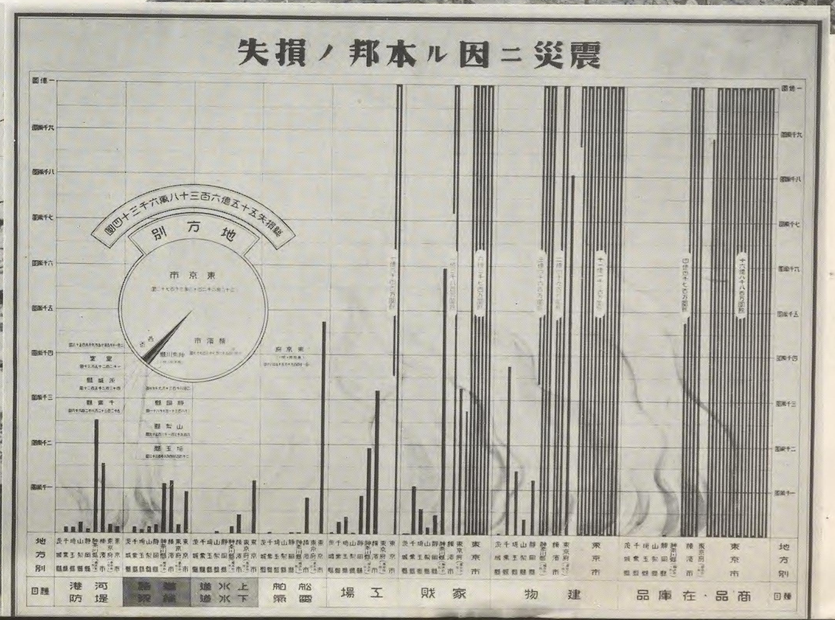
驛野上るせと景背を火猛　上右
前の避難者の殺到
火猛の附附點近日比谷交叉　下左





「表圖域區失燒災火震市京東」　上左
（列陳館念記興復）
自るけ於に町張尾の後直失燒　下右
骸殘の車動

狀慘の區六園公草淺るた漠落風秋　上右
「表圖失損の邦本る因に災震」　下右
（列陳館念記興復）



右　上　組閣間もなき山本内閣の對震災緊急閣議
（於　首相官邸生芝）
左　下　九月七日緊急三大勅令公布
（九月八日　大阪朝日新聞）

右　上　九月十二日國民に詔を賜ふ
（九月十三日　大阪朝日新聞）
左　下　殘骸の帝都を護る嚴たる戒嚴令

震災を軫念あらせられ
國民に優詔を賜ふ

十二日攝政宮より山本首相拜受

天皇皇后兩陛下には今回の震災を太く軫念あらせられ十二日山本首相を赤坂離宮に御召しあり攝政宮殿下から帝都復興に關する左の優詔を賜はつた

勅　語

朕神聖ナル宗祖ノ遺範ヲ紹キ光輝アル國史ノ成蹟ニ鑒ミ常ニ國運ノ發展ニ留意シテ治ヲ圖リ幸ニ天祐ヲ享ケ以テ今日ノ隆運ヲ致セリ

顧ミルニ曩ニ日露ノ大戰ニ際シテハ擧國一致ノ力ヲ以テ之ヲ克服シ更ニ第一次世界ノ大戰ニ當リテハ深ク時局ノ推移ニ鑑ミ益々國力ノ充實ヲ圖リ以テ東洋ノ平和ヲ維持シ國運ノ伸暢ヲ期シタリ

然ルニ今回ノ震災ハ其ノ激烈ナル古今ニ其ノ比ヲ見ス朕カ臣民ニ對スル慈愛ノ情ハ固ヨリ人ニ後レサラムコトヲ期スト雖モ如何ニセハ能ク此ノ災厄ヲ免レ得ヘキヤ朝夕軫念シテ已マサルモ惟フニ天災地變ハ人力ノ及ハサル所ナリ只ソノ來ルヤ突然ニシテ人事ヲ盡ス遑ナキ場合多キヲ以テ之カ豫防ニ關シテハ人智ノ未タ及ハサル所アリ

朕ハ非常ノ果斷ヲ以テ之カ一擧ニ當ラムトスルモ事ノ緩急ニ從ヒ施設ノ宜キヲ得サレハ却テ人心ヲ惑ハシ民業ヲ害スルノ虞アリ

朕ハ深ク之ヲ憂慮シ特ニ臨時ノ機關ヲ設ケ帝都ノ復興ニ關スル施設ヲ審議セシメムトス

惟フニ帝都ハ國家ノ政治經濟ノ樞軸ト人文ノ淵叢トヲ以テ其ノ隆替ハ實ニ國運ノ消長ニ關スルヲ以テ朕ハ帝都ノ復興ニ關シテハ最モ意ヲ用ヰムトス

汝臣民亦宜ク朕カ意ヲ體シ協心戮力以テ國家ノ興隆ヲ圖リ朕カ臣民ニ對スル信倚ニ應ヘムコトヲ期セヨ

御名御璽

攝政宮

大正十二年九月十二日

内閣總理大臣子爵　山本權兵衛

寄附金の大募集

救護部委員會で

震災

火災保險にも
急に具體方法を

中村理學博士の談

陷落地震と思ふ

關西線
吃驚通過
橋の改修

農家

緊急勅令の公布

三大緊急勅令公布
六日の樞密院會議で可決

暴利の取締令

支拂延期の勅令

流言蜚語取締令

帝都の

文部

毎日開講

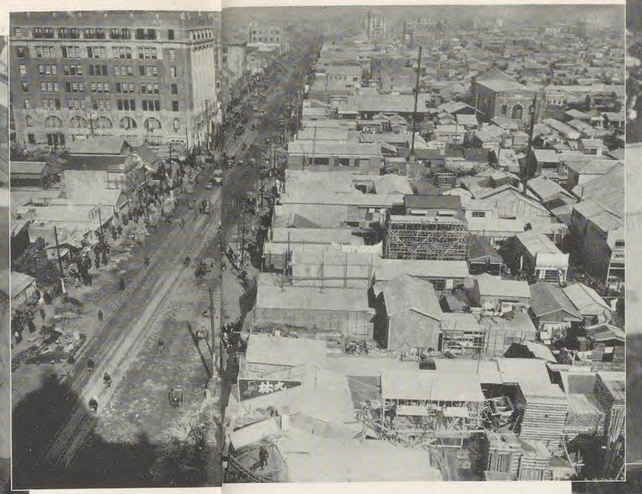
大阪朝日新聞

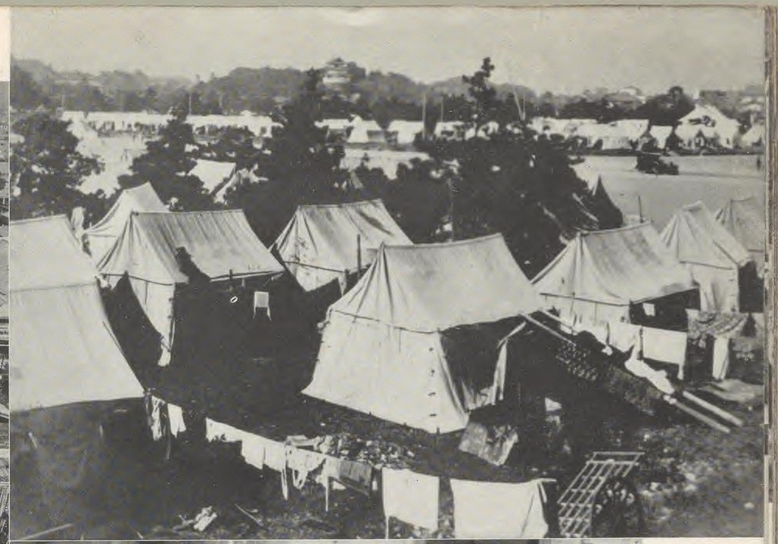
右上　鐵道隊の活動
左上　帝國海軍の艦艇によりて帝都を
　　退く避難民（芝浦にて）
下　帝都學生奉仕隊の燒跡整理

右上　東京市廳舍門前に殺到し尋ね人の群
右下　燒野原の帝都よりお歸省する避難民
　　（驛　端　田）
左　避難者捜査隊

動活の隊軍るけ於に所出炊市京東　上左
（繪油列陳館念記興復）
給配水料飲の隊軍　下右

慈仁御の下陛母國　上右
時の成御へ所護救市京東の野上
（繪油列陳館念記興復）
動活の護救社字十赤本日　上左
（繪油納奉堂念記災震）
（頭埠浦芝）給配品糧食急救の隊軍　下





右上　宮城前のテント村
左上　銀座通りのバラック街
右下　悲惨なバラック生活

→　燒殘りを利用した二階建バラック
左上　露　天　教　壇
上　岩崎男の無料診療所（上野出張所）
下　明治神宮外苑のバラック圖書館

右上　災害直後に營まれた罹災者本位の街頭商店

左上　日本橋橋畔の簡易立食店と八百屋

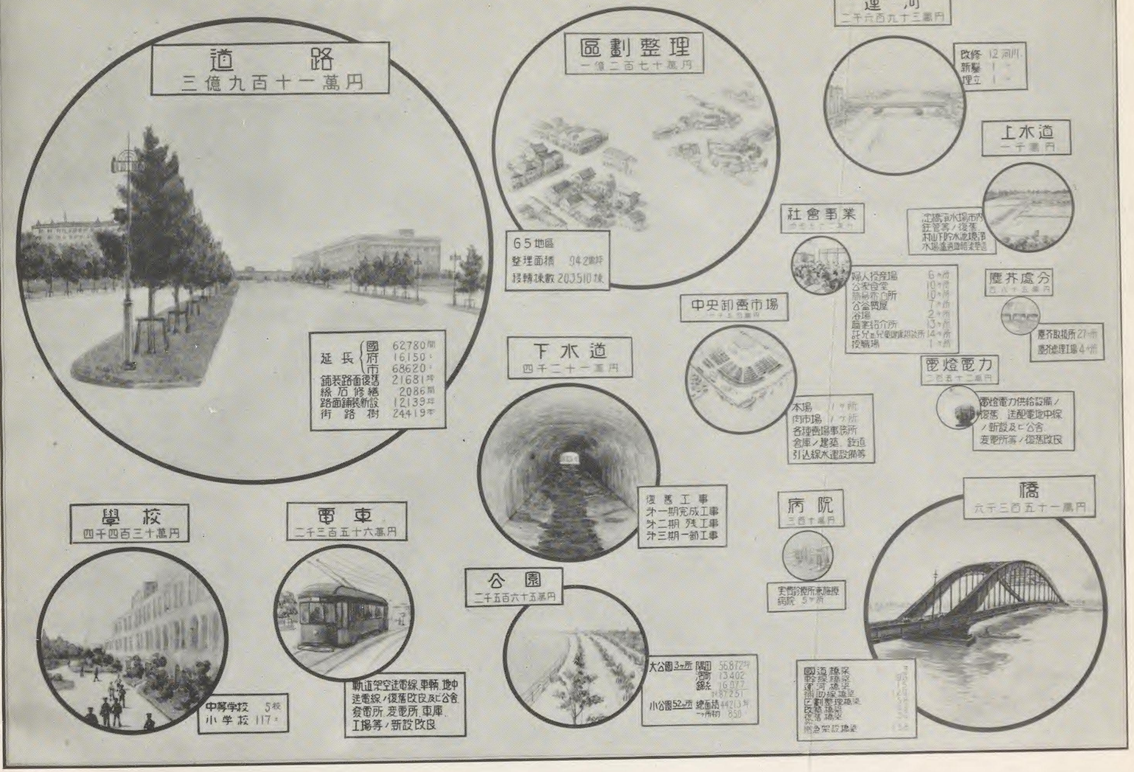
下　災害地の郵便配達夫

右上　燒野となつた帝都に於ける唯一の交通機關（淺草—品川間）

左下　罹災者だけは無料の鈴成電車

上　九段坂上より神田方面を望む
中　清洲橋より永代橋を望む
下　隅田公園

東京復興事業の内容



「東京復興事業の内容表圖」
（列陳館念記興復）

萬五たれ殪てしに幸不又つ且し記銘に遠永を禍慘大
言不るす對に害災てせ併ひ弔を靈の牲犧民市の千八
財淨と力協の志有私公く汎くべす遺に來將を告警の
災震たれさ設建に園公町網橫跡廠服被所本てつよに
の下右　堂念記が塔重三の央中眞寫　景全の堂念記
館念記興復館別のそは築建風洋

昭和五年三月廿六日帝都復興祭を迎へた
喜歡の民市
上　宮城前に擧げられた祝典
下　日比谷公園內園復興祭會宴場に於ける
濱口首相以下の乾杯

震災記念堂
手向の歌

×

一、突如地殻は揺れ震ひ
　烈風猛火を追ひ擁げ
人の力も盡き果てゝ
　帝都の半ば燒野原
あゝ大正の大震火災

二、のがれて被服廠跡は安全と
　喜び合ふも柄の間よ
寄する旋風火の海に
　尊き人命煙と消ゆ
あゝ恐ろしや悲歎の地

三、手向の香華捧げつゝ
　薄命五萬八千人
靈魂永久に冥れよと
　誠をこめて祈るなり
香煙絶えぬ記念堂

四、力絶え絶え消ゆるまで
　相寄る學友を助けつゝ
父母よ我師と呼びかはす
　悲しき姿目の前に
偲ぶ兒童の弔魂像

五、中華民國熱誠の
　祈念をこめし弔鐘は
亞細亞の民の親善と
　興亞の空に高く鳴る
東洋平和の法の鐘

六、あの恐ろしき震災の
　記念の品と復興の
その大業をとこしえに
　傳へて世々に警めん
見よや復興記念館

七、九月一日午前十一時五十八分忘れずに
　ゆるむ心のネヂをまき
燃ゆる力と汗と愛
　帝都の復興こゝに成る
世界に誇る大東京

震災記念堂内外

復興記念館全景

館念記興復と堂念記災震

上　記念堂内部廣間と中央祭壇　その奥には遭難死者の遺骨が奉安されてゐる

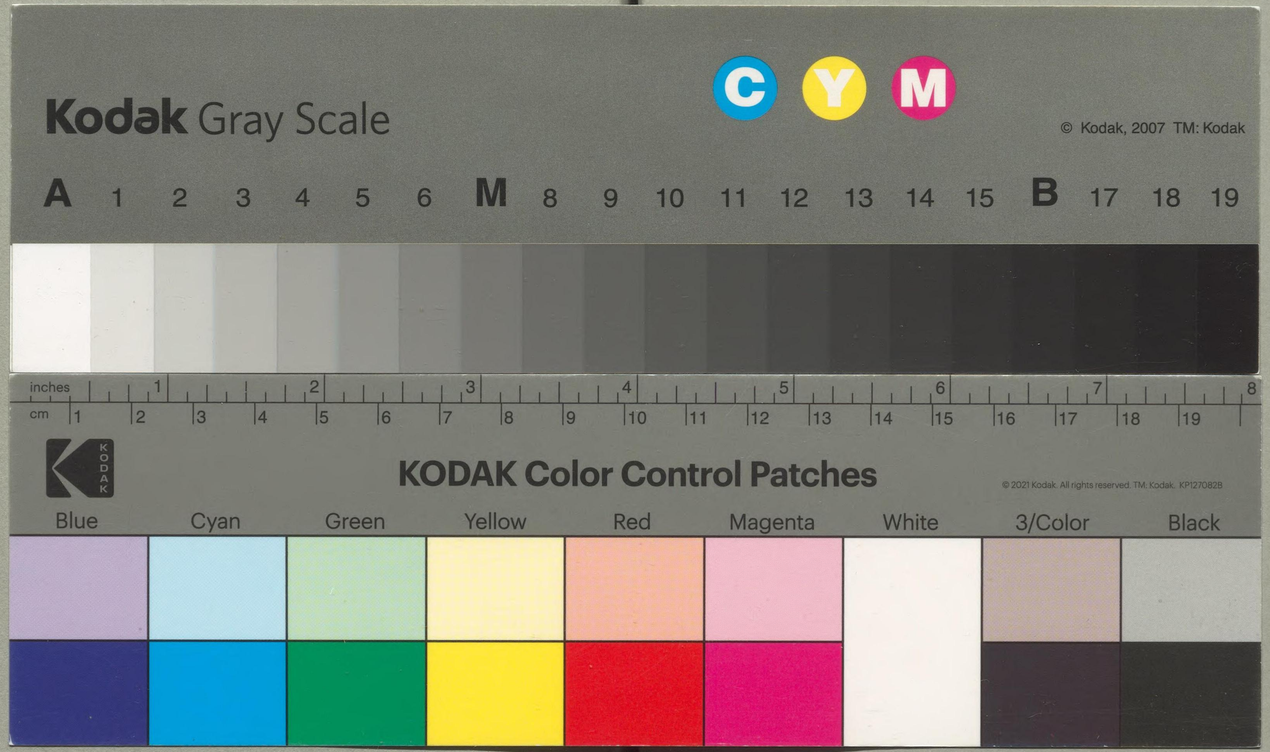
下　復興記念館は災害の實情を物語る寫眞　繪畫　圖表及び帝都復興の資料を整理陳列した小博物館

396
52

昭和十四年八月二十五日印刷
昭和十四年九月　一　日發行

東京市麴町區丸ノ內三丁目一番地
編輯並發行者　東京市役所

東京市品川區東大崎一丁目五三二
印刷者　株式會社　光村原色版印刷所


Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
KODAK Color Control Patches
© 2021 Kodak. All rights reserved. TM: Kodak. KP1270828
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black